

研究論文

教育方法としてのアクティブ・ブック・ダイアログ®の
活用に関する一考察

松浦 正典

A study on the use of “Active Book Dialogue” as an educational method

Masanori Matsuura

(要約)

大学の教職教養の科目「特別活動と総合的な学習の理論と指導法」の中でアクティブ・ブック・ダイアログ®を活用した講義を行った直後に学生にアンケートを行い、その教育的効果や興味関心について学生がどのように感じているかを調査・分析した。アクティブ・ブック・ダイアログ®を活用した学修を好意的に受け止め、この学修により、自分自身が向上することを期待していることが示唆された。授業時間は90分間に限られているため、効果的にこの学修方法を取り入れられるように、さらに工夫していく必要がある。

1 はじめに

学生の学びを深める教育手法として今アクティブ・ブック・ダイアログ®が注目され、大学での講義に取り入れられることも増えてきている。摂南大学では、読書法や協同学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指して、専攻課程の共通科目「大学教養入門」で教養の入門書を用いてアクティブ・ブック・ダイアログ®が行われている。また、水野ら(2017)は「本一冊でアクティブ・ラーニングを実現！すぐに使えるABD(アクティブ・ブック・ダイアログ®のこと)研修」と「スキル向上のための研修プログラム」の一つとして紹介している。52名の参加者に「ABDは今後の教育改善に参考になったか」についてアンケートを取り、結果を掲載している。「とても参考になった(81%)」「まあまあ参考になった(19%)」と参加者全員が参考になったとの回答が得られたとしている。さらに、自由記述欄において「今後講義に取り入れたい」など積極的な意見が見られたとも述べられている。

また、神戸学院大学日置(2022)はブログ「大学の組織開発物語」の中で、アクティブ・ブック・ダイアログ®について触れ、「最近の学生が教科書を読まない」、「この方法なら無理やりでも教科書を読む機会が作れる」とその意義を述べている。

しかし、本来の学修の主役である学生が、その効果や感想を述べている研究はほとんどない。そこで、大学の教職教養の科目「特別活動と総合的な学習の理論と指導法」の中でABDを活用した講義を行った直後に学生にアンケートを実施した。その結果を基に、教育的効果や興味関心について学生がどのように感じているかを調査・分析することとした。

2 アクティブ・ブック・ダイアログ®について

アクティブ・ブック・ダイアログ®は、竹ノ内 壮太郎によって開発された読書法である。竹ノ内は、「アクティブ・ブック・ダイアログ®は、読書が苦手な人も、本が大好きな人も、短時間で読みたい本を読むことができる全く新しい読書手法です。1冊の本を分担して読んでまとめる、発表・共有化する、気づきを深める対話をするというプロセスを通して、著者の伝えようとすることを深く理解でき、能動的な気づきや学びが得られます。またグループでの読書と対話によって、一人一人の能動的な読書体験を掛け合わせることで学びはさらに深まり、新たな関係性が育まれてくる可能性も広がります。」と述べ、さらにアクティブ・ブック・ダイアログ®がもたらす8つのメリットを以下のように挙げている。

1. 短時間で読める

短時間で読書ができて、著者の想いや内容を深く理解できるので、本を積ん読している方にはピッタリです。

2. サマリーが残る

アクティブ・ブック・ダイアログ®後にサマリーが残るので、見直して復習したり、本を読んでいない人にも要点を伝えやすくなります。

3. 記憶の定着

発表を意識してインプットしてまとめた後、すぐにアウトプットをして意見交換をするので、深く記憶に定着します。

4. 深い気づきと創発

多様な人どうし、それぞれの疑問や感想をもって対話することで、深い学びの創発が生まれます。

5. 個人の多面的成長

集中力、要約力、発表力、コミュニケーション力、対話力など、今の時代に必要なリーダーシップを同時に磨けます。

6. 共通言語

同じメンバーで行うことで、同じレベルの知識を共有できるため、共通言語を作ることができます。

7. コミュニティができる、

本が1冊あれば仲間との対話や場を作れるので、気軽なコミュニティ作りに最適です。

8. なにより楽しい

本を読んで感動したり学んだ熱量をその場ですぐに共有できるので、豊かな学びが生まれ、何より読書が楽しくなります。

3 アクティブ・ブック・ダイアログ®の授業での活用について

アクティブ・ブック・ダイアログ®の公式マニュアルのとおり行くと最低でも150分間の時間が必要となる。大学の授業時間は90分間であり、そのすべてを行うことは不可能である。そこで筆者は授業の時間内に終えることができるよう、いくつかの変更を行った。無料マニュアルが示すやり方と授業の時間内で完結させるために変更したやり方については表1で示した。

マニュアルの内容 (全体で150分間以上)	実施の授業の内容 (全体で90分間)
1 オープニング	1 オープニング
1-1 チェックイン	1-1 前回の授業の振り返り
1-2 オリエンテーション	1-2 今回の授業の流れの説明
アクティブ・ブックダイアログの全体の流れを説明する	1-3 班分け
	1-4 班別自己紹介
2 メイン	2 メイン
2-1 サマライズ (30~60分) サマリーはB5の用紙に6枚程度	2-1 サマライズ (35分程度) サマリーはB5の用紙に4枚程度
2-2 リレープレゼンテーション 2分×人数、ギャラリートークあり	2-2 リレープレゼンテーション 2分×5~6人、ギャラリートークなし
2-3 ダイアログ (30~60分) 感想や疑問について話して深める	2-3 ダイアログ (5分間) 班ごとに感想や質問等の交換
3 エンディング	3 エンディング
3-1 チェックアウト 今の気持ち、ABDの感想など全体を通した感想を共有する	3-1 振り返り 振り返り用紙に今回の授業の感想や学んだこと等を記入し、教員に提出

4 調査方法

【調査時期】2022年11月8日

【調査対象者】摂南大学教職課程履修者30名

【調査手続き】教職科目「特別活動・総合的な学習の理論と指導」の第7回と第8回の学修においてアクティブ・ブック・ダイアログ®（以下ABDと表す）を実施し、第8回終了時に下記の内容を無記名のアンケートとして実施。

【調査項目】下記の通り

ABD についてのアンケート

問1 ABDを行うと学修に対して主体的・積極的になれますか

- 1 なれる 2 どちらかというとなれる 3 普通
4 あまりなれない 5 なれない

問2 自分で担当したところはよく理解できましたか。

- 1 よくできる 2 どちらかというとできる 3 普通
4 あまりできない 5 できない

問3 友達が担当したところはよく理解できましたか。

- 1 よくできる 2 どちらかというとできる 3 普通
4 あまりできない 5 できない

問4 前回の学修についてお聞きします

(1) 前回の学修の後、復習をしましたか

- 1 復習した 2 復習していない 3 覚えていない

(2) 前回学修した内容で、自分が担当したところの内容は覚えていますか

- 1 よく覚えている 2 覚えている 3 だいたい覚えている
4 あまり覚えていない 5 覚えていない

(3) 前回学修した内容で、友達が担当したところの内容は覚えていますか

- 1 よく覚えている 2 覚えている 3 だいたい覚えている
4 あまり覚えていない 5 覚えていない

問5 大学の授業でABDを行うことについてどう思いますか

- 1 とても良い 2 良い 3 普通
4 あまりよくない 5 良くない

問6 ABDを行うとどのような力がつくと期待しますか。

- 1 その科目の知識 2 読解力 3 まとめる力 4 プレゼン力 5 聴く力
6 協力する力 7 その他()

※ABDで行う授業について、感想や意見・希望が

あれば「振り返り」に書いてください

なお、実施にあたり以下の3点を確認した

- ・教育方法として ABD を学生がどう思うかを研究するためのアンケートであること
- ・成績には一切関係しないこと
- ・無記名で良いこと

アンケートの大部分が選択式であることと、「振り返り」を授業終了時に毎回書いていることもあり、全員が10分以内に書き終え、提出した。

なお、使用した教材は「平成29年度版 学習指導要領解説書 特別活動編」であった。

5 調査結果

アンケートによる調査結果は以下の通りであった。自由記述について人数が書いていないものはそれぞれ1名である。

問1 ABDを行うと学修に対して主体的・積極的になれますか

- 1 なる 12名 2 どちらかというとなれる 11名 3 普通 7名
4 あまりなれない 0名 5 なれない 0名

問2 自分で担当したところはよく理解できましたか。

- 1 よくできる 14名 2 どちらかというとできる 14名 3 普通 1名
4 あまりできない 1名 5 できない 0名

問3 友達が担当したところはよく理解できましたか。

- 1 よくできる 4名 2 どちらかというときた 14名 3 普通 8名
4 あまりできない 4名 5 できない 0名

問4 前回の学修についてお聞きます

(1) 前回の学修の後、復習をしましたか

- 1 復習した 7名 2 復習していない 19名 3 覚えていない 4名

(2) 前回学修した内容で、自分が担当したところの内容は覚えていますか

- 1 よく覚えている 6名 2 覚えている 4名
3 だいたい覚えている 14名 4 あまり覚えていない 3名
5 覚えていない 3名

(3) 前回学修した内容で、友達が担当したところの内容は覚えていますか

- 1 よく覚えている 2名 2 覚えている 1名 3 だいたい覚えている 11名
4 あまり覚えていない 10名 5 覚えていない 5名

問5 大学の授業でABDを行うことについてどう思いますか

- 1 とても良い 8名 2 良い 14名 3 普通 8名
4 あまり良くない 0名 5 良くない 0名

問6 ABDを行うとどのような力がつくと期待しますか。(複数回答あり)

- 1 その科目の知識 9名 2 読解力 19名 3まとめる力 25名
4 プレゼン力 26名 5 聴く力 9名
6 協力する力 4名 7 その他(責任感 1名)

(感想や意見等・自由記述)

- ・2分間で発表することが意外と難しかった 2名
- ・2回目なので自分も他の人たちも上達していてより理解できた
- ・2回目なのでまとめやすかった 5名
- ・ABDは理解力が上がり、まとめる力も付く
- ・2回目で取り上げることと取り上げないことをスムーズに分けられた
- ・2回目なのでまとめやすく発表する力も付いた 3名
- ・2回目なので時間配分がうまくいった 2名
- ・前回の反省を生かして、図や表を使いわかりやすく伝えることができた
- ・プレゼンのため読解力がつくが、全体的な理解にはつながらない気がする
- ・発表する人により、聞く側が理解できないこともある
- ・事前に教科書を読んでいたので、全体がよく理解できた
- ・ABDをすることでコミュニケーション力等普段から使える力が育つ
- ・スムーズにプレゼンするためにより内容理解をしなければならない
- ・書く内容と話す内容のバランスが大切である
- ・2回目でこの活動に対する苦手意識が減った

※このほかに科目の内容について4件の記述があった。

6 調査結果の分析

(1) 問1の結果について

ABDの学修は、「主体的・積極的にになれる」と肯定的に答えた学生が23名、全体の77%になった。ABDの活動は、自分の担当する部分を、自分なりにまとめ、B5の紙4枚に表現し、それをグループのメンバーに説明するというものなので、自分が動かなければグループのメンバーに迷惑をかけてしまう。そのため主体的・積極的にならざるを得ない活動であることが関係していると思われる。

(2) 問2と問3の結果について

ABDは担当の部分を友達に説明するために、自分がある程度理解しなければならない。そのため、自学よりもさらに真剣に本に向き合って理解に努めたことは容易に想像できる。問2で、「自

分で担当したところは理解できる」と肯定的に答えた学生が 28 名、全体の 93%以上になったことはそのことを反映していると思われる。しかし問 3 の「友達が担当したところは理解できる」と肯定的に答えた学生は 18 名、全体の 60%に過ぎなかった。発表する側には 2 分間という時間制限がある上に、プレゼンテーションにあまり慣れていない 1 年が多いということも関係していたと思われる。自分で調べたところと比べると、友達の発表は理解しづらいという感想を持っている学生が少なくないという結果になった。

(3) 問 4 の結果について

「自分が調べたところを覚えている」と答えた学生は 10 名、33%、「友達が調べたところを覚えている」と答えた学生は 3 名、10%に過ぎない。大学の日程の関係で、前回の学修から 2 週間空いていることもあるが、知識の定着は必ずしも高いとは言えないであろう。「友達が調べたところを覚えている」学生はとても低いと言える。ただし、「前回の復習をした」と答えた 7 名のうち、自分が担当した内容については「よく覚えている」3 名、「覚えている」1 名、「大体覚えている」1 名、友達が担当した内容について「よく覚えている」2 名、「覚えている」0 名、「大体覚えている」3 名と答えており、学修後復習することで補うことができる可能性があることが示唆された。

(4) 問 5 の結果について

ABD を大学の授業で行うことについては、「良い」と肯定的に答えた生徒が 22 名、全体の 73% いた。さらに「良くない」と否定的に答えた学生が全くいなかった。

(5) 問 6 の結果について

ABD を行う上で期待する力については、「その科目の知識」よりも、「読解力」、「まとめる力」、「プレゼン力」が多かった。

ABD は、単に自分が分かるだけでなく、グループの友達に分かりやすく伝えることが期待されている。そのため、端的にまとめ、相手に分かりやすく表現することが必要になってくる。普段の学生の生活において「自分以外の人のために頑張る」ことをあまり経験していないことは容易に想像できる。また、教えてもらう立場はたくさん経験していても、自分が教える立場になる経験は、アルバイトで塾の先生をしているなど特別の場合を除いて、あまりないであろう。

そのことが、特に「まとめる力」、「プレゼン力」がつくことに多く期待すると答えたのではないかと思われる。

(5) 自由記述の内容について

ABD を行うことが 2 回目であったため、「1 回目より向上した」という内容が多かった。サマライズ(要約)とサマリーづくりについては合計 35 分間、プレゼンテーションについては一人につき 2 分間という時間制限があるため、それについて上達した(時間内でこなせた)との記述もあった。繰り返し実施することで、制限時間内に「まとめる力」や「プレゼン力」の向上を実感しているようである。しかし本来目的としている科目内容の理解については、「ABD は理解力が上がり、まとめる力も付く」という肯定的な意見がある一方で、「プレゼンのため読解力はつくが、全体的な理解にはつながらない気がする」・「発表する人により、聞く側が理解できないこともある」など、自分が担当した部分の内容についても、友達が担当した部分の内容についても、課題があると感じている学生がいることが分かった。

7 考察

本稿の分析を通して示された重要な点をまとめれば次の通りとなる。

- (1) ABDを行うことで学生は主体的に学修に参加していると感じている。
- (2) 自分が担当した部分については科目の内容が「理解できている」と感じている学生が多いが、友達が担当した部分については、「理解しづらい」と感じる学生が少なくない。
- (3) 前回(2週間前)ABDで学修した内容について、自分が担当した部分については「ある程度覚えている」と答えた学生が多いが、友達が担当した部分については、「覚えていない」と答えた学生が9割に達し、たいへん多い。復習をすることである程度改善できることも示唆された。
- (4) ABDを大学の授業で行うことについては、好意的に受け止めている学生が7割以上と大変多い。ABDは学生にとって授業中の負担が大変大きい学修方法のため、筆者は逆の反応を予想していたので、たいへん驚く結果となった。
- (5) ABDで身に付けることが期待される力として、60%近くもしくは以上の学生が「まとめる力」「プレゼン力」「読解力」をあげた。その科目の内容の理解だけではなく、これらの力を必要とされる学修だという意識が強いことが示唆された。
- (6) 大学の授業は90分間のため、一つ一つの活動に時間制限がある。そのため時間に合わせるため、学生によっては十分でない学修になってしまっていることも予想される。

8 終わりに

実際にABDで学修をした後行ったアンケートと振り返りをもとに学生の立場でとらえた「教育方法としてのABDの活用について」考察した。無記名とはいえ、授業の時間におこなったことでバイアスがかかってしまった危険性もあり正確な値が出ているとは言えないが、ある程度の傾向が掴めたのではないと思われる。

考察でも触れたが、学生はABDを活用した学修を比較的好意的に受け止め、自分自身が向上することを期待している。90分間という授業時間は限られているため、効果的にこの学習方法を取り入れられるように、反転学習等の導入などさらに工夫していく必要があるだろう。

9 引用文献・参考文献等

- ・摂南大学学生「参加型・学生主体型教育の実践」(2022)説明資料・日置和人(2017)
ブログ「大学の組織開発物語」 <https://odlabo.wixsite.com/lv-od/post/>
- ・水野武 他(2017)
「摂南大学におけるアクティブ・ラーニングのためのティーチングスキルの実証的研究」
摂南大学 Smart and Human 研究助成論文
- ・アクティブ・ブック・ダイアログ®に関するホームページ
「今読書の世界で革命が起きている すべての人が本を好きになるために」
<http://www.abd-abd.com/>
- ・浅田他 (2017) アクティブ・ブック・ダイアログ®マニュアル